

PRESS RELEASE

2018 / 03 / 12

モダンアート再訪

ダリ、ウォーホルから草間彌生まで
福岡市美術館コレクション展

Modern Art Revisited:
from the collection of Fukuoka Art Museum

2018年4月7日（土）—5月20日（日）

埼玉県立近代美術館

19世紀後半から20世紀後半にいたる約100年間の美術は、「モダンアート(近代美術)」と呼ばれています。この時代の美術は、次々に起こる前衛的な運動によって、目まぐるしく変化しました。

1979年に開館した福岡市美術館は、九州を代表する美術館として、国内でいち早くモダンアートの収集を開始し、優れたコレクションを所蔵しています。この展覧会では、工事休館中の福岡市美術館の全面的なご協力により、ヨーロッパとアメリカ、日本の優れた作品およそ70点を一堂にご紹介します。シュルレアリスムから、戦後の抽象表現主義、ポップ・アートまで、欧米を中心に展開した美術の歴史をたどるとともに、戦後の日本で独自の活動を繰り広げた「具体美術協会」や「九州派」などの作品も多数展示します。特に福岡を拠点とし、既存の芸術や東京を中心とする価値観に反旗を翻した前衛美術家集団「九州派」の作品を、関東でまとめてご紹介する貴重な機会になります。この展覧会では、一本の線ではたどることのできない20世紀美術のさまざまな様相を、「身体」と「イメージ」をキーワードとする6つのセクションによって読み解いていきます。21世紀に入って20年が過ぎようとしている今、モダンアートを改めて「再訪」し、その多様性と豊かさを体感していただければ幸いです。

展示構成と出品作家

第1章 夢の中のからだ

画家にとって古くから重要なモチーフである人間のからだ。そのからだが現実から離脱し、夢の中のような光景に描かれた作品を集めました。サルバドール・ダリ、ジョアン・ミロなど、シュルレアリスムの美術家を中心に紹介します。

出品作家：レオナルド・フジタ（藤田嗣治）、マルク・シャガール、ジョアン・ミロ、ポール・デルヴォー、サルバドール・ダリ、三岸好太郎、藤野一友

第2章 不穏な身体

傷を負った身体、切断された身体、身体そのものの痕跡……。触覚に強く訴えかけるような、不穏さを秘めた身体の表現を、池田龍雄、河原温、ジャン・デュビュッフエなどの作品を通じて探ります。

出品作家：ジャン・デュビュッフエ、イヴ・クライン、海老原喜之助、野見山暁治、池田龍雄、河原温、工藤哲巳

第3章 身体と物質—九州派・具体・アンフォルメル

画面に火を放つ、足で絵具を押し広げる——激しい行為による制作がなされるとき、身体は描かれる対象から描く主体へと転換し、作品は物質へと接近します。その様相を九州派、具体、アンフォルメルの作品からたどります。

出品作家：尾花成春、桜井孝身、山内重太郎、石橋泰幸、田部光子、菊畑茂久馬、オチオサム、吉原治良、元永定正、白髪一雄、嶋本昭三、田中敦子、松谷武判、向井修二、マーク・トビー、ジャン・フォートリエ、アントニ・タピエス

第4章 転用されるイメージ—ポップ・アートとその周辺

1960年代に入ると、ポップ・アートの登場により、コカ・コーラや星条旗など、資本主義社会にあふれるイメージが美術作品に転用されるようになります。モダンアートが重視してきた芸術家の独創性と主体性が揺らぎ始めます。

出品作家：ロイ・リキテンシュタイン、ロバート・ラウシェンバーグ、アンディ・ウォーホル、アルマン、草間彌生、篠原有司男、中村宏、菊畑茂久馬、風倉匠、赤瀬川原平、タイガー立石、柳幸典

第5章 イメージの消失—抽象と事物

絵画が抽象へと向かい、イメージが消失したとき、絵画は限りなく事物に近づきます。やがて絵画や彫刻といった形式すら解体され、物質や事物がそのまま作品として提示されました。美術はひとつの極限的な在り方に達します。

出品作家：ルチオ・フォンタナ、マーク・ロスコ、フランク・ステラ、クロード・ヴィアラ、ルイ・カーヌ、瑛九、桑山忠明、榎倉康二、原口典之、山崎直秀

第6章 再来するイメージ

1980年代に入ると、絵画や彫刻といった形式が復活していきます。モダンアートが重視した純粹性や1970年代に見られた極限性から離れて、豊穡なイメージを纏った作品が生み出されました。新しい時代が幕を開けます。

出品作家：ジグマール・ポルケ、リサ・ミルロイ、ジャン＝ミシェル・バスキア、横尾忠則、辰野登恵子、大竹伸朗、金村修、やなぎみわ

関連イベント

■レクチャー&トーク「反芸術綺談～九州派とその時代」

4月22日（日）

【第一部：レクチャー】14:30～15:00（開場は14:00）

山口洋三（福岡市美術館学芸係長）

【第二部：トーク】15:15～16:30

菊畑茂久馬（本展出品作家）× 山口洋三

会場：2階講堂／定員：100名（当日先着順）／料金：無料／内容：1950年代から60年代を駆け抜け、日本の戦後美術に足跡を残した前衛美術家集団「九州派」。伝説となったその活動を、福岡市美術館は30年以上にわたって調査、紹介してきました。1957年から62年まで九州派に所属し、現在も美術家として活躍を続ける菊畑茂久馬氏と、2015年に「九州派」展を担当した山口洋三氏に、九州派について語っていただきます。

■担当学芸員によるギャラリートーク

4月28日（土）、5月12日（土）／各日とも15:00から30分程度／2階展示室／企画展観覧料が必要です。

展覧会情報

1. 会期 2018年4月7日（土）～5月20日（日）
休館日：月曜日（4月30日は開館）
2. 開館時間 10時～17時30分（展示室への入場は17時まで）
3. 観覧料 一般1000円（800円）、大高生800円（640円）
（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料です。
※併せてMOMASコレクション（1F展示室）もご覧いただけます。
4. 主催 埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
5. 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
6. 協力 JR東日本大宮支社、FM NACK5

7. 特別協力 福岡市美術館
8. 出品点数 約 70 点

■会場案内／アクセス

埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話 048-824-0111 FAX 048-824-0119

E-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

お問い合わせ

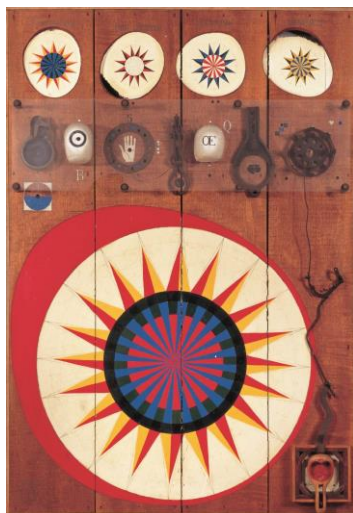
展覧会担当：吉岡、大浦 広報・画像に関するお問い合わせ：飯島

電話 048-824-0111（代表）／ 048-824-0110（学芸部） Fax 048-824-0118

広報用画像



①



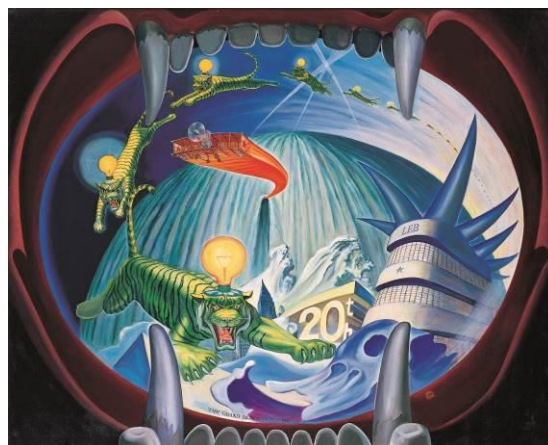
②



③



④



⑤

- ・ 画像のご提供については、当館にお問い合わせください。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・飯島）までお願いします。
- ・ 画像を掲載する場合、下記キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようにお願いします。
- ・ 貴社媒体にて本展をご紹介いただける場合、読者プレゼント用招待券をご提供致します。詳細はお問い合わせください。

■キャプション

- ① 三岸好太郎《海と射光》1934年、福岡市美術館蔵
- ② 菊畑茂久馬《ルーレット No.1》1964年、福岡市美術館蔵
- ③ 田中敦子《作品 1》1959-60年、福岡市美術館蔵 © Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
- ④ イヴ・クライン《人体測定 (ANT 157)》1961年、福岡市美術館蔵
- ⑤ タイガー立石《大停電 '66》1966年、福岡市美術館蔵